

分類	項目	回答
協働的な学び	○見合う視点	<p>・見合うためには、運動の行い方を理解する必要がある。単元前半で運動の行い方を理解し、それをもとに運動を見合う。うまく伝え合えない児童には、見る場所や運動のポイントを適宜伝える。またうまくできている児童を紹介したり、運動のポイントは動画等をタブレットで共有したりする。</p> <p>・見合う視点は課題による。手のかきなら前方または横(水中)、足なら後方または横(水中)、手足の組み合わせなら横(水中)などである。動きのポイントについては、試行錯誤しながら探究することも大切だが、スイムマスターのようにデジタル教材で示すことも有効である。</p>
	○グループ編成	<p>・グループ編成は、子供の実態に応じて行う。基本的には、子供のめあてに応じて子供自身が自然発生的に編成していく。難しいのであれば教師が意図的にトリオ等を設定する方法もある。技能の習熟の程度が混ざるように編成すると、単元を通して見合うことで変容を見とれるようになる。</p>
	○促す手立て	<p>・自身の課題に1人で取り組むには(自分の動きを見ることはできないので)限界がある。その際に友達に関われるように、同じ学習の場で取り組んでいる友達の動きを見たり、聞いたりすることを促す言葉かけを行う。</p>
思考力、判断力、表現力等	○めあてのもたせ方	<p>・中学年であれば、「浮く・沈む」の場、「面かぶりクロール」の場、「カエル足」の場の3つの課題になるので、その場で課題を立てる。</p> <p>・できるようになりたいことから始める。適切な課題設定と運動の場の選択を行うことは中学年の目指す児童像である。</p>
	○場の選択	<p>・課題に合わせて運動の場を選ぶのは他領域でも同様の学習である。また、適宜声掛けをしていく必要はある。「楽しい場所を選ぶ」こと自体が悪いわけではなく、児童が学習課題を見いだすことが重要である。。</p>
	○振り返り	<p>・学習カードには①今日の課題②気付いたこと、感想(運動のポイント、こつ)③次回の課題の記述欄を設ける。児童の思考に合わせた、振り返りしやすいカードはできるだけ簡素にしている。</p>
学びに向かう力、人間性等	○動機づけ	<p>・中学年の児童はプールで「したい」「やりたい」ことがたくさんある。児童の意欲を学習に生かしていくことが重要である。</p>
評価	○評価の方法	<p>・授業前に教職員間で一単位時間の評価規準を確認し、共有する。学習の場にそれぞれ教員を配置する中で、評価規準をもとに見取り、後ほど各担任に伝える。評価規準は学習指導要領に準拠する。</p>
接続	○低学年との接続	<p>・自分のできる動き・運動から始め、児童自身が自ら選んで行っていくことが重要である。</p>